

今日きょうの福音ふくいんの中なかで、復活ふっかつされたイエス様さまは、ご自分じぶんの復活ふっかつについて話し合はなっていた弟子あたちでしに
 自らみづかを現あらわされました。その時とき、弟子でしたちが集あつまって、ペトロさまにイエス様あらわが現はなれたことを話して
 いたら、そこに、エマオむに向かっていたあの二人ふたりの弟子でしたちも戻もどって来きて、自分じぶんたちもイエス様さまに
 出会であったことを驚おどろきと感動かんどうをもって話はなしていたのです。そんなところこんどに、今度いまはイエス様さまご自身じしん
 が現あらわれたのですから、皆みなの驚おどろきはどれほど大おおきかったことでしょう。彼らかれが亡霊ぼうれいを見みているよう
 な気持きもちになったのは十分じゅうぶん理解りかいできます。きっと、イエス様さまも弟子でしたちのその反はん応のうが良よく分わかって
 おられたと思おもいます。そこで、イエス様さまは彼らかれに声こゑをかけて、先まず、彼らかれを安あん心しんさせたうえで、更さら
 に、ご自分じぶんの手てと足あしとをお見みせになりました。それだけでも、イエス様さまの復活ふっかつの事じじつ実かくじつに
 証明しょうめいされるはずですが、弟子でしたちは喜よろこびと夢ゆめうつつの中なかでさまよっているようでした。その様子ようす
 を見ておられたイエス様さまは彼らかれに食たべ物ものを願ねがい、一切ひときれの焼やいた魚さかなをもらって彼らかれの目めの前まえでそ
 れを食たべました。こうして、イエス様さまは復活ふっかつに対する弟子たいたちの疑うたがいや恐おそれ、また、不安ふあんなどを
 取り除とかれたのです。何なんと優やさしいことでしょう。それから、イエス様さまは弟子でしたちの心こころの目めを開ひらか
 れ、彼らかれが聖書せいしょの御言葉みことばを悟さとれるようになさったうえで、彼らかれに大だい事じな任にんむ務さずを授さづけられました。そ
 の任にんむ務さずとは「メシアは苦くるしみを受け、三日目うに死者みっかめの中ししゃから復活なかする。また、罪つみの赦ゆるしを得えさせる
 悔くい改あらためが、その名なによってあらゆる国くにの人々ひとに宣のべ伝つたえられる。」という、旧約きゅうやく聖書せいしょ全体ぜんたいのテ
 ーマがイエス様さまによって全まうされたという事じじつ実しょういんの証人しやうにんとなることでした。

そのイエス様さまの命めい令れい通とおりに、弟子でしたちはメシアであるイエス様さまの苦くるしみと十字架じゅうじかじょう上の死し、また、
 復活ふっかつをあらわにしつつ、そのイエス様さまの名なによって、罪つみが許ゆるされることを救すくいの福音ふくいんとして宣のべ伝つた
 えました。今日きょうの第1朗読だいいちろうどくは聖霊せいれいに満みたされたペトロえんげつの演説かたを語ときっています。その時とき、ペトロはヨ
 ハネと一緒いっしょに神しん殿でんに上のぼっていましたが、ある足あしの不自ふじ由ゆうな人ひとを癒いやしたのち、その出来事できごとを見みて
 驚おどろいていた人ひとたちに向むかって演説えんげつしたのです。ペトロは先まず、イエス様さまの死し刑けいの経緯けいを公おおやけにし、

つづ 続いて、そのイエス様が復活されたことを宣言しました。でも、それはイエス様の死刑に賛同した
 ぐんしゅう せ 群衆を責めたわけではありませんでした。それは復活されたイエス様がメシアであることを認め、
 そのイエス様の名によって、すべての人が自分たちの罪を赦していただけるようにするための演説
 だったので。ペトロは、神様が遣わされたイエス様が裁きの主ではなく、慈しみと愛の主であ
 ることを人々に証ししましたが、それはイエス様がかつておっしゃった通りです。即ち、イエス
 様は世を裁くために来られたのではなく、救うために来られたということです。確かに、イエス様
 は世の罪を取り除くために遣わされた神様の小羊で、イエス様の死によって神様の救いの計画は
 失敗したように見えたが、イエス様の復活を通して、神様は慈しみと愛による救いを完成さ
 れたのです。弟子たちはその神様の「愚かな救いの計画の完成」、つまり、神様ご自身がご自分の
 ひとり子を犠牲にして罪人を救われたことを、神様からの良い知らせとして至る所で宣べ伝えたの
 です。

きょう 今日の第2朗読で、使徒ヨハネはイエス様が罪人の弁護者であり、正しい方で、全世界の罪を償
 ういけにえだと語っています。それは、イエス様がそういう方だから、罪を犯しても大丈夫だとい
 う意味ではなく、むしろ、イエス様によって罪が許されたので、これからは罪を犯すことがないよ
 うにするためです。ヨハネはそれが神様の限りない愛にこたえることだと言っているのでしょう。
 じっさい 実際、イエス様はすべての人が悔い改めて神様の愛に立ち返らせるために来られ、イエス様ご自
 身が教えられた愛を十字架上で証しされました。ヨハネはそれが分かったので、たとえ罪を犯した
 としても、悔い改めて愛の掟を守るならば、神様の救いに与れると教えたのです。

きょうかい 教会とはそのイエス様の掟を一番大事にし、それを守り、また、実践する人たちの共同体な
 のです。私たちは復活されたイエス様を、神様のひとり子として信じるだけではなく、イエス様の
 愛の掟を守るなら、誰もその救いに与れると信じている人たちです。ですから、信者の皆さんに
 おいては、最も深い愛、温かい思いやり、広い理解心、真心からの謙遜、赦しの力が要求さ

れるわけです。誰かが先にそういう姿勢を示すかを待たず、皆がそうなるようとする姿勢で、誰よりも先に自分がそうなるために努力すべきです。そうしないと、私たちは偽り者となってしまう、結局、神様の慈しみやイエス様の愛を証しするどころか、むしろ神様を侮辱する者となってしまうでしょう。

ところで、今日の福音の中で、弟子たちは復活されたイエス様について話し合っていました。彼らはそれぞれ、自分たちが経験したイエス様の復活のことを話していましたが、そこにイエス様が来られたのです。つまり、復活されたイエス様はご自分について話し合う所におられ、復活が話される所に来られて、共にいてくださるということです。言い換えれば、復活が証言される所にイエス様はおられるのです。実は、弟子たちはイエス様のことを証しし始めてからは、もはや弟子ではなく、使徒となりました。すなわち、彼らはただ学んだり、聞いたりする弟子ではなく、イエス様の愛による救いを証しし、それを行うために派遣された者となったということです。わたしたちも同様で、私たちの間でイエス様の復活と、命と愛の言葉が交わされなければ、イエス様は私たちのうちにおられないだけでなく、その時、私たちは使徒でも弟子でもなく、ただの「教会に籍を置いている人」にすぎなくなるのです。

今教会は復活節を過ごしていますが、新型コロナウイルスは新たな勢いで、私たちを脅しています。こんな状況にあって、一人一人がイエス様の愛を深めることと、互いに支え合うことが大事なことだと思えます。イエス様の愛が信者の皆さんに豊かに注がれるよう、お祈りいたします。